

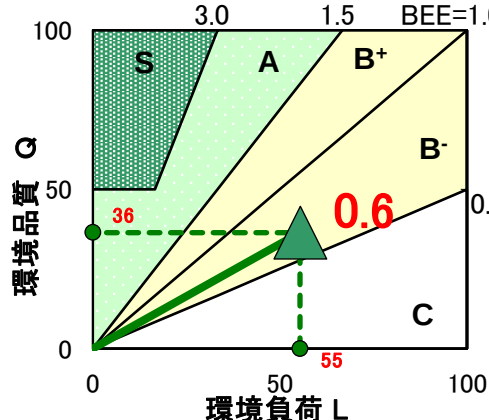


■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE Nagoya 2016(v3.0)

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

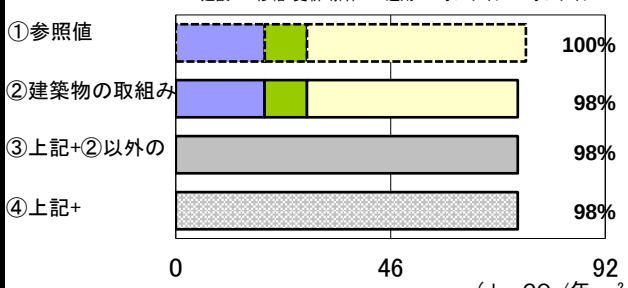
= BE0.6  

★ :S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★ C

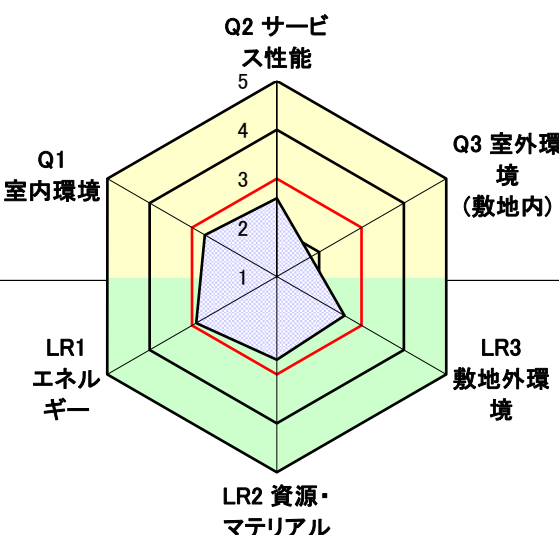


☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

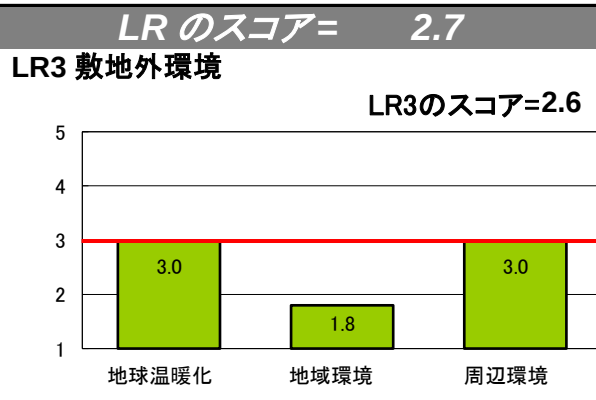
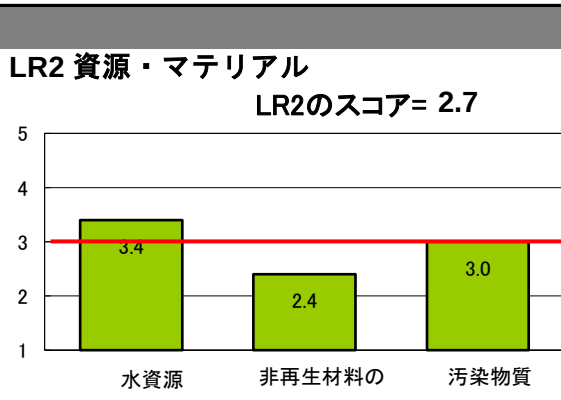
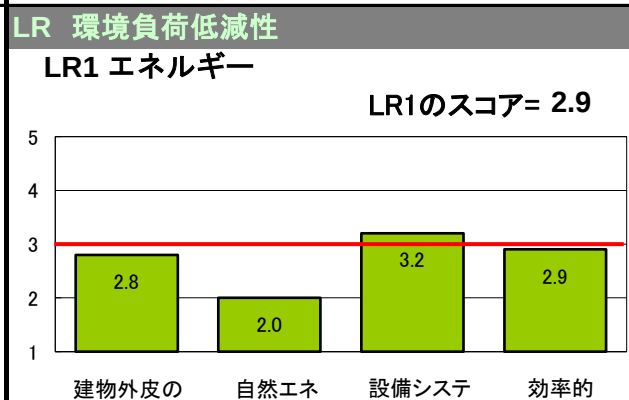
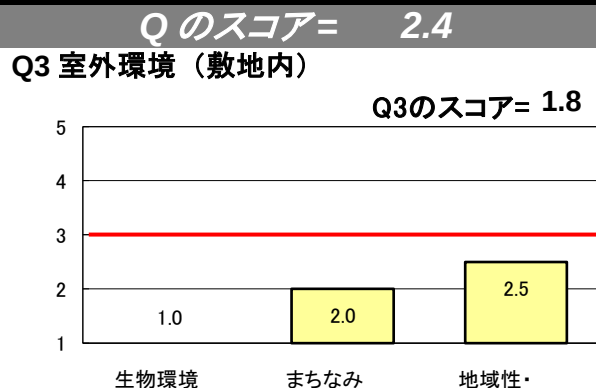
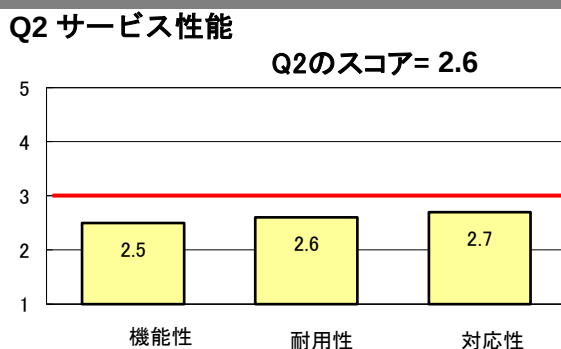


Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

環境品質	スコア
音環境	2.9
温熱環境	2.4
光・視環境	2.8
空気質環境	2.9
Q1のスコア	2.7



総合
ファミリー向けの賃貸住宅と1階の貸店舗のアプローチは完全に分けて使用できる建物とした。敷地の北側を平面駐車場とすることで、日影の影響や圧迫感のない建物配置とし、周辺環境にも配慮した計画とした。

その他

Q3 室外環境（敷地内）
景観への配慮や防犯カメラの設置など、防犯性にも配慮した。

Q1 室内環境
室内の居住性を考慮した採光、換気計画とした。

Q2 サービス性能

Q3 室外環境（敷地内）
景観への配慮や防犯カメラの設置など、防犯性にも配慮した。

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル
有害物質を含まない建築材料などをできるだけ使用する
ように努めた。

LR3 敷地外環境

敷地内に住戸数以上の駐車場と自転車置場を設けた。1階店舗は専用の駐車場と自転車置場を設けて、住宅部分と出入口を別に設けた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)APマンション陸前町

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.9
LR1	エネルギー	3.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.9



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。